

2024 年下期 IFASS 会議報告

1. はじめに

会計基準設定主体国際フォーラム（International Forum of Accounting Standard Setters：IFASS）は、各法域の基準設定主体並びに会計基準及びサステナビリティ開示基準に関連する諸問題に対する関心の高いその他の組織による非公式のネットワークである。IFASS 会議は、毎年、春と秋の 2 回開催されている。今回の会議は、ロンドンの会場における対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。会議には各法域の基準設定主体からの代表者に加えて、議長を務める Chiara Del Prete 氏が所属するエフラグ（EFRAG）や他の地域グループの代表者などが参加した。企業会計基準委員会（ASBJ）及びサステナビリティ基準委員会（SSBJ）からは、川西 ASBJ 委員長兼 SSBJ 委員長、中條 ASBJ 常勤委員兼 SSBJ 常勤委員、山口 ASBJ 常勤委員及び筆者が出席した。

本稿では、下記「2. 全体のスケジュール」でハイライトした、本会議の主要なセッションの概要について紹介する。なお、本稿における筆者の意見にわたる部分は、筆者の私見であり所属する団体・組織の公式見解ではないことをあらかじめ申し添える。

2. 全体のスケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。なお、表中の「FR」は財務報告に関する議題であることを表し、「SR」はサステナビリティ報告に関する議題であることを表している。

	議 題	担 当
2024 年 9 月 24 日		
1	歓迎の挨拶及び会議の全体概要	Chiara Del Prete 氏（IFASS 議長）、Wolf Klinz 氏（EFRAG 財務報告審議会（FRB）議長）
2	IFASS 議長の次回選挙のプロセス	Chiara Del Prete 氏（IFASS 議長）

	議 題	担 当
3	FR : 電力購入契約	モデレーター : Keith Kendall 氏 (オーストラリア会計基準審議会 : AASB) Katharine Christopoulos 氏 (カナダ会計基準審議会 : AcSB) 、 Pierre Martin 氏 (フランス国家会計基準局 : ANC) 、 José Luiz Carvalho 氏 (ラテンアメリカ会計基準設定主体グループ : GLASS) 、 Carolyn Cordery 氏 (ニュージーランド外部報告審議会 : NZ XRB)
	SR : 法域のアップデートー サステナビリティ報告の採用に向けてのアジアにおける行程	モデレーター : Bee Leng Tan 氏 (マレーシア会計基準審議会 : MASB) Sam Prestidge 氏 (国際サステナビリティ基準審議会 : ISSB テクニカル・スタッフ) 、 Ms Kuldip Gill 氏 (シンガポール会計企業規制庁 : ACRA Singapore) 、 Rosita Uli Sinaga 氏 (インドネシアサステナビリティ基準審議会) 、 Pera Yulianingsih 氏 (インドネシアサステナビリティ基準審議会)
4	FR : - IFRS 第 17 号の適用上の課題 - IFRS 第 15 号及び IFRS 第 16 号と英国会計基準との整合性; 継続企業の前提及び削減された開示 - IAS 第 37 号の的を絞った修正	- Katharine Christopoulos 氏 (AcSB) - Jenny Carter 氏 (英国財務報告評議会 : UK FRC) 、 Stephen Maloney 氏 (UK FRC) - モデレーター : Joan Brown 氏 (国際会計基準審議会 : IASB テクニカル・スタッフ) Katherine Knowlton 氏 (AcSB) 、 Pierre Martin 氏 (ANC) 、 Sébastien Harushimana 氏 (EFRAG)
	SR : - サステナブル・フィナンソロピー・フレームワーク (社会トピック) - SR SME 報告	- Wei Lin Tan 氏 (National Council of Social Service (NCSS) Singapore) - モデレーター兼プレゼンター : Chiara Del Prete 氏 (EFRAG) Rana Usman Khan 氏 (アジア・オセアニア基準設定主体グループ : AOSSG) 、 Patricia Moles 氏 (メキシコ財務報告基準審議会 : CINIF Mexico) ¹
2024 年 9 月 25 日		
5	導入及び今後の対応	Chiara Del Prete 氏 (IFASS 議長)
6	無形資産	モデレーター : Rasmus Sommer 氏 (EFRAG)

¹ オンラインでの参加であった。

	議 題	担 当
		Tim Craig 氏 (IASB) 、Fridrich Housa 氏 (AASB) 、Matthew Tilling 氏 (英国エンドースメント審議会 : UKEB)
7	キャッシュ・フロー報告	モデレーター : Katharine Christopoulos 氏 (AcSB) Keith Kendall 氏 (AASB) 、Wolf Klinz 氏 (EFRAG) 、Rasmus Sommer 氏 (EFRAG)
8	INPAG 及び IPSASB のアップデート	Karen Sanderson 氏 (英国勅許公共財務会計協会 : CIPFA) 、Ian Carruthers 氏 (国際公会計基準審議会 : IPSASB)
9	財務報告とサステナビリティ報告との間のコネクティビティ	モデレーター : Seema Jamil-O'Neill 氏 (UKEB) Jack Bisset 氏 (NZ XRB) 、Vincent Papa 氏 (EFRAG) 、Katharine Christopoulos 氏 (AcSB)
10	財務諸表における気候関連及びその他の不確実性	プレゼンテーション : Karen Robson 氏 (IASB テクニカル・スタッフ) モデレーター : Nili Shah 氏 (IASB エグゼクティブ・テクニカル・ディレクター) Charis Halliday 氏 (AASB) 、Simone Scettri 氏 (イタリア会計基準設定主体 : OIC)
11	ISSB の相互運用可能性	Sam Prestidge 氏 (ISSB テクニカル・スタッフ)
12	気候関連基準に対する法域の観点	モデレーター : Pedro Faria 氏 (EFRAG) Doris Yi-Hsin Wang 氏 (台湾会計研究発展基金会 : ARDF Taiwan) 、José Luiz Carvalho 氏 (GLASS) 、Gina Chammas 氏 (ISA レバノン : ISAL) ² 、David Bolderston 氏 (ISSB テクニカル・スタッフ) 、Carolyn Cordery 氏 (NZ XRB)
13	閉会挨拶	Chiara Del Prete 氏 (IFASS 議長)

3. 主な議事概要

(1) 電力購入契約

本セッションでは、AASB の Keith Kendall 氏により会議が進行された。冒頭、電力購入契約に関する各法域の現状や環境について、AcSB の Katharine Christopoulos 氏、ANC の Pierre Martin 氏、GLASS の José Luiz Carvalho 氏、NZ XRB の Carolyn Cordery 氏ら登壇者からそれぞれ簡単に説明が行われた。次に、IASB 公開草案「再生可能電力に係る契約

² オンラインでの参加であった。

（IFRS 第 9 号及び IFRS 第 7 号の修正案）」のどのような側面について同意するか、どのような点に懸念があるか、IASB は、今後どのような点を考慮すべきかについて、各法域の意見が述べられた。また、パネルディスカッションの合間に、参加者への投票形式の質問（法域で最も一般的な問題は何か、IASB は電力購入契約に関して将来何を行うべきか等）も行われた。

（2）無形資産

本セッションでは、EFRAG の Rasmus Sommer 氏により会議が進行された。IASB テクニカル・スタッフの Tim Craig 氏から IASB のリサーチプロジェクトの概要、AASB の Fridrich Housa 氏から上場企業 100 社を対象として顧客関連の無形資産がどのような産業でどのような種類の無形資産が計上されているのかの初期的なリサーチ、UKEB の Matthew Tilling 氏から UKEB が行った無形資産のリサーチの結果の概要について説明がなされた。また、①IASB が解決すべき無形資産の全体的な課題は何か、②IASB が優先すべきトピック、③優先すべきではないトピックは何か、④望まれるプロジェクトのアプローチの方法（包括的な検討、早期の評価、段階的な検討）に関して参加者への投票形式により質問が行われ、これに対する登壇者からの意見が述べられた。

質問①については、IAS 第 38 号は古い会計基準であるため新しい種類の無形資産に対処できない可能性があるという回答が相対的に多かった。登壇者からは、IAS 第 38 号「無形資産」（以下「IAS 第 38 号」という。）は暗号資産のような新たな資産を適切に反映できていないように思われること、IAS 第 38 号がカバーしていない新しいタイプの無形資産が関係者にとって最重要課題であることに同意した。また、IASB が得ている情報では、IAS 第 38 号の根本的な変更が必要であるのか、新しいタイプの無形資産に対応する改善が必要であるのかは意見が分かれていることなどが述べられた。

質問②については、投資目的で保有する無形資産の検討、財務諸表の要素だけではないより広範な無形資産に関する情報の調査、認識されている無形資産と認識されていない無形資産に関する利用者が必要とする情報及び当該情報の記載箇所の検討、概念フレームワークの改訂に伴う無形資産の定義等の更新が相対的に多かった。登壇者からは、投票結果と IASB が聴取した内容は整合しているとの回答があった。また、投資目的で保有する無形資産の検討は、暗号資産に関するプロジェクトなのか、IAS 第 38 号の範囲に含めておくのかについては、今後検討を行うことなどが述べられた。

質問③については、認識されていない無形資産に関連する特定の費用を分解するための要件の開発が相対的に多かった。登壇者からは、EFRAG による聴取結果と比べると意外な結果であることや、企業が明らかに無形資産を多く保有しているにもかかわらず、財務諸表上で認識されていないため信頼性に欠けるとの意見が利用者から必ず出ることなどが述べられた。加えて、質問②と③に関連して、より多くの無形資産を貸借対照表上で認識することによる損益計算書への影響や、取得した無形資産と自己創設無形資産の違いについても様々な意見があったことが述べられた。

質問④については、段階的な検討を支持する回答が相対的に多かった。登壇者からは、段階的な検討は包括的な検討に変わってしまう可能性があるため早期の評価が望ましいとの意見、段階的な検討は、早い段階から困難な道をたどる危険性があるとの意見があった。

(3) 財務報告とサステナビリティ報告との間のコネクティビティ

本セッションでは、NZ XRB の Jack Bisset 氏、EFRAG の Vincent Papa 氏及び AcSB の Katherine Christopoulos 氏により、各法域における財務報告とサステナビリティ報告との間のコネクティビティについて説明がなされた。これを受けて、UKEB の Seema Jamil-O'Neill 氏の進行のもと、登壇者の法域又は地域におけるコネクティビティに関する主な課題などについての議論がなされた。

(4) ISSB の相互運用可能性

本セッションでは、ISSB テクニカル・スタッフの Sam Prestidge 氏により、ISSB 基準と関連する基準との間の相互運用可能性について紹介され、参加者からは、デジタル・タクソノミのコンバージェンスや、グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）及び EFRAG の基準との相互運用可能性等に関して質問が行われた。

(5) 気候関連基準に対する法域の観点

本セッションでは、ARDF Taiwan の Doris Yi-Hsin Wang 氏、GLASS の José Luiz Carvalho 氏、ISAL の Gina Chammas 氏、ISSB テクニカル・スタッフの David Bolderston 氏及び NZ XRB の Carolyn Cordery 氏により、気候関連基準について、各法域における採用（adoption）の状況が説明された。これを受けて、EFRAG の Pedro Faria 氏の進行のもと、ISSB 基準を導入するにあたって各法域又は地域で認識している課題などについて議論がなされた。

4. 次回の予定

次回の IFASS 会議は、2025 年 3 月にイタリアのナポリで開催される予定である。

以 上